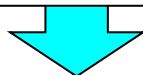


学校教育目標
かしい子 やさしい子 げんきな子

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
①AI機能搭載学習アプリの活用、習熟度別指導、補充教室、みなみの診断テストによる基礎基本の徹底。 ②新学習指導要領に基づく指導の充実(主体的・対話的な学習、地域や企業と連携した学習、プログラミング教育、職業に関わる学習)。③高学年での「一部教科担任制」による学習の充実。④家庭・地域や企業と連携した学習の推進。⑤読書目標の設定(低学年…月7冊、高学年…月300ページ)と読書月間の実施。⑥保幼小中連携教育の充実。キャリアパスポートの活用。⑦理科的自由研究の奨励による理科教育の充実。⑧家庭学習週間の設定(7月・12月)と家庭学習の手引きの配布による学習習慣の確立。

指導の重点(各教科)
◎各教科の学習内容の系統性を押さえた指導を行うことで、学びの連続性を図る。 ◎「東京ベーシック・ドリル」を活用し、全児童に算数の基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 ◎記録・要約・説明等の活動を充実させ、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる授業を展開する。 ◎専門性のある人材や地域の人材を積極的に活用するとともに、様々な体験活動や体験的な学びを推進し、学習への興味・関心、主体的に学ぼうとする意欲を高める。 ◎ICT教育推進リーダーを中心に、全ての教員がICT機器を用いた授業を展開し、一人1台端末を活用した授業改善を図るよう取り組む。 ◎各教科の単元に応じて、論理的思考力やプログラミング的思考力を育成するための授業を工夫し、専門的な知識を有した外部講師等を活用した授業を展開する。 ◎各教科等との関連を図りながら健康教育、食育を充実させ、体力向上や自ら健康を保持増進する意識や実践力を育む。 ◎各教科の指導計画に、学校図書館の活用を位置付け、読書活動や国語科の読む活動の取組を推進するとともに、学習情報センターとしての学校図書館を活用した課題解決的な学習を充実させ、自ら考え主体的に取り組む力を育成する。 ◎外国語の授業では、指導計画の工夫や事前の打ち合わせを通して、担任がT1となってALTとの役割分担を明確にし、ALTを効果的に活用した授業を推進する。

指導の重点(総合的な学習の時間)
◎体験的な学習や探究的な学習を重視するとともに、自主的・自立的・積極的な活動により、児童自らが、その思いや願いを伸び伸びと表現できる力を育てる。 ◎教科横断的な視点から、探究的な見方・考え方を働かせ課題解決的な活動を行い、自国・他国の文化を理解し尊重する態度を育てる。 ◎「10年間を振り返ろう」、「見つけよう! ~夢・あこがれ・未来の自分~」などの体験的な活動や、課題解決的な活動を通し、自らの生き方を考えることができるようにする。 ◎地域や学校の特性、時代の要請を踏まえ、全体計画、年間指導計画を作成し「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスを通じた「探究的な学習」を充実させる。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
◎1年生の算数では任期付短時間勤務教員などを効果的かつ組織的に活用する。2～6年生の算数においては、習熟度別指導を実施する。 ◎朝学習や放課後学習教室、長期休業を中心とした補充学習、学校独自の診断調査を実施する。	◎オープンキャンパスを年3回実施し、中学進学への見通しをもたせる。 ◎中学校教員による小学校6年での乗り入れ指導を年1回実施し、教員同士の各校種の指導状況や児童・生徒への理解を深めカリキュラム連携を意識し授業力の向上を図る。	◎各学力調査の結果等を基に分析して授業改善プランを作成し、指導と評価の一体化を図る。 ◎各教科において学習指導要領に示す目標に準拠した評価(観点別学習状況)を設定する。 ◎授業中の発言やノートへの記録等を見取り、次時の学習に生かし、指導と評価の一体化を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
◎一人1台タブレットを最大限に活用し、みなみの学習モデルを踏まえた指導計画を系統的に作成し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図る。	◎共生社会の形成に向けて、全ての学級においてユニバーサルデザインや合理的配慮が提供された授業づくりを実践し、障害の有無にかかわらず、すべての児童が共に学び、尊重し支え合い、多様な在り方を認め合う態度を育成する。	◎「みなみの小家庭学習の手引き」を活用した家庭学習週間を実施し家庭との連携による学年に応じた自主学習を定着させることで、学習習慣の確立を図る。 ◎学校保健給食委員会等の活動を通して食事・運動・睡眠等基本的な生活習慣の確立を啓発していく。

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 【小学校】

##### 国語科における指導の重点

- ・話すこと、聞くこと、書くこと、読むことのそれぞれにおいて記録・要約・説明等の活動を充実させ、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる授業を展開する。
- ・ノート指導等を通して、書く活動を意識的に取り入れる。そうして明確に言語化された自分の考えをもとに、意見交流や話し合い、グループでの課題解決といった、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等これからの時代に求められている学力の育成を図る。

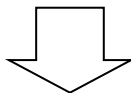
##### 現状分析

###### 区学力調査の結果分析

- ・校内の目標値に対して3年生以上の達成率が7割を超えていないため、基礎的・基本的な学力の定着に課題があることが分かる。特に、「書く活動」が区学力調査の目標値を下回っている。既習漢字（低学年はひらがな・カタカナを含む）の定着をはじめ、提示された文章に対して、条件に即して書いたり、自分の考えを明確にして書いたりすることが苦手であることが分かった。

###### 教科指導上の課題

- ・文章を書く際に、児童がこの場合はこう書けばよいと「わかる」指導をする必要がある。例えば、教師がモデル文を示しながら具体的に書き方を教えたり、児童が各々書いたものを読み合う中でよいところを見付けたりすることで、次回以降の書く活動に生かしていく。児童一人ひとりの文章に対して教師が的確に評価することを繰り返し、「わかる」につなげる必要がある。



##### 授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習等に Qubena を活用し、各自の進捗で文字練習や助詞の適切な使い方の習熟を図る。</li> <li>・コラボノートやシンプルプレゼンなどの ICT ツールを用いて、全体の意見集約を行い、児童同士の考えを共有できるようにする。</li> <li>・単元の後半に、成果物を児童同士で読み合う場面をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を用いて文字の筆順やとめ、はね、はらいを確認する。</li> <li>・ノートを提出させて、板書を正確に写せているかを確認する。</li> <li>・長音、拗音、撥音、促音などの表記や、「は」「へ」「を」を文中で適切に使えるようにする。</li> </ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習等に Qubena を活用し、各自の進捗で文字練習や助詞の適切な使い方の習熟を図る。</li> <li>・コラボノートなどの ICT ツールを用いて、全体の意見集約を行い、児童同士の考えを共有できるようにする。</li> <li>・根拠に即して自分なりの考えを書けるよう指導する。</li> <li>・言葉の特徴や使い方を朝学習等でプリントや Qubena で復習し、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を用いて文字の筆順やとめ、はね、はらいを確認する。</li> <li>・書く活動の際には、既習の漢字を使うよう意識させる。</li> <li>・デジタル教科書を電子黒板に写し、根拠となる言葉を視覚的にも分かりやすく明示する。</li> <li>・デジタル教科書、使い方を視覚的に示して確認できるようにする。</li> </ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習等に Qubena を活用し、各自の進捗で文字練習や助詞の適切な使い方の習熟を図る。</li> <li>・文章を書く際、その文種の書き方を教師が教え、それを参考に個で書く活動を行い、児童同士で読み合って推敲する中で、文章の整合性や内容のよさを以後の学習に生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を用いて文字の筆順やとめ、はね、はらいを確認する。</li> <li>・文学的文章においては、登場人物の考えや思いが書かれている(あるいは推し量れる)ところを見付けられる、説明的文章においては、文章構成を的確に読めるようにする。</li> </ul>

(2) 社会科

【小学校】

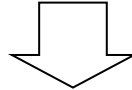
社会科における指導の重点

- ・ノート指導を充実させ、自分の考えをもった上で、意見交流や話し合い、グループでの課題解決といった、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、これからの時代に求められている学力の育成を図る。
- ・社会科見学や出張授業等の機会を活用し、専門性のある人材や地域の人材を積極的に活用するとともに、様々な体験活動や体験的な学びを推進し、学習への興味・関心、主体的に学ぼうという意欲を高める。
- ・ICT 機器を活用した授業を展開するとともに、一人1台端末を活用した授業改善により、社会科の見方・考え方や情報モラルを身に付けられるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・児童の疑問をもとに学習を展開するとともに、個別学習や協働学習を組み合わせながら社会科で身に付けたい学力の育成を図る必要がある。
- ・昨年度までの感染症対策に基づく制限も軽減されてきた中で、これまで以上に専門性のある人材や地域の人材を授業に取り入れるなどし、児童が現実の社会の姿から学びを得られるようにする必要がある。
- ・資料提示や話し合いの学習場面等において適切に ICT を活用し、児童が授業内容をより理解できるようにする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的事象に興味をもって学べるように、ICTを活用して、調べ学習を取り入れる。</li><li>・地図帳やICTの資料の使い方や読み取りのポイントを各単元で確認するとともに、資料を読み取る時間を確保する。</li><li>・まとめ方を示し、自分ですすんで表現できるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料をいつでも見ることができるよう、資料をクラスルームに入れておく。</li><li>・新聞など、自分の力に合わせて型を選択できるようにする。</li><li>・必要な児童にはまとめ方を示し、安心して表現できるようにする。</li></ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・5年生：学習したことを白地図にまとめたり、考えたことを思考ツールを使ってまとめたりする学習を協働で行うようにする。その前に、必ず個人としての考えを整理する活動を行う。</li><li>・6年生：「(各時代の)文化についての学習」等で、ジグソー法を取り入れる。</li><li>・5・6年共通：疑問を集約する際にICTを活用し、児童が互いの考えを見合いながら学習問題をつくれるようにする。</li><li>・5・6年共通：資料を Google classroom 等で配信し、手元で見られるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・5年生：資料の基本的な見方(読み方)を確認する。</li><li>・6年生：年表と地図を積極的に活用し、時間的・空間的な見方・考え方が身に付くようにする。</li><li>・5・6年共通：「わかったこと」よりも「考えたこと」に重点を置いて板書に表す。</li></ul>

(3)算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ・「中野区学力にかかわる調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果等を基に現状を分析して授業改善プランを作成し、指導と評価の一体化を図る。
- ・「東京ベーシック・ドリル」を活用し、全児童に算数の基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。
- ・個に応じた指導を推進するために、2～6年生の算数においては、習熟度別指導を実施する。また、朝学習の充実や週3日実施の放課後学習教室、長期休業を中心とした補充学習、学校独自の診断調査を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- ・自ら学ぶ力を養うために、「みなみの小家庭学習の手引き」を活用した家庭学習週間を実施し、家庭との連携による学年に応じた自主学習を定着させることで、学習習慣の定着を図る。
- ・一人1台タブレットを最大限に活用し、みなみの学習モデルを踏まえた指導計画を系統的に作成し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図る。

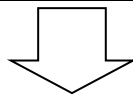
現状分析

区学力調査の結果分析

・2年は目標値を3.5ポイント(目標値達成率84.7%)、3年は6.2ポイント(同78.2%)、4年は5.3ポイント(76.2%)、5年は0.2ポイント(同71.9%)上回っている。6年は目標を3.3ポイント(同61.8%)下回っている。計算は概ねできているが、全体的にデータの活用の達成率が他と比べて低くなっている。データの活用では、大小関係や変化の割合が一目で分かるグラフのよさをおさえるとともに、調べた結果を表に整理し、グラフにまとめる活動を通し、結果を視覚的に共有して理解を深めていけるようにする。

教科指導上の課題

・児童の習熟状況により、個に応じた指導を充実させる必要がある。また、問題の意味を正しく理解し、立式できるよう、問われていることは何なのか、問いに対して正しく立式し、計算できるような指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作しての活動や、繰り返しの指導を通して学習内容の定着を図る。時計やものさし、形など、あらゆる教具を活用し、個に対応する。</li> <li>・ペアやグループでの学習活動を通して、自分の考えを隣や前後の人に伝えられるような時間を意図的に入れる。話し合ったことを全体で共有できるようにする。</li> <li>・電子黒板を活用し、視覚的に捉えやすくする。書画カメラを用いてノート指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は6月からQubena、9月からはNavimaも活用し、授業で学習したことを確実に定着できるようにする。2年生からは4月から活用する。</li> <li>・その日に学習したことを確認できるような家庭学習課題を用意する。</li> <li>・たし算、ひき算を確実にできるようにするため、繰り返しの指導とノート指導を徹底する。児童のノートは毎日目を通すことで、児童の理解を把握し、指導に生かすようにする。</li> </ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人のグループで問題を解き、話し合いを活性化させる。全員が全部終わったら、教師が確認し先に進む方式を意図的に入れることで、児童同士で学習を進めていける時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Qubena、Navimaを活用し、授業で学習したことを確実に定着できるようにする。</li> <li>・反復学習を重視し、必要に応じて同じ問題に数回取り組むことで知識・理解を深めることができるようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて九九カードを配布し、授業中に活用できるようにするなど、個別最適な学びを実践する。</li> <li>・電子黒板を活用し、視覚的に捉えやすくする。タブレットを活用し、類似問題や補充問題を行い、理解を深めていけるようにする。</li> <li>・作図問題を教員が確認し、誤っているところを指導し、児童が気付いて訂正できるようにする。</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習は、授業でその日に学習した内容とリンクさせるようにし、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</li> </ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個でじっくり考える時間を設ける。タブレットを活用し、自分の考えをグループや学級で共有することにより、協働的な学びの充実を図る。</li> <li>・必要に応じて九九カードを配布し、授業中に課徴できるようにするなど、個別最適な学びを実践する。</li> <li>・電子黒板を活用し、視覚的に捉えやすくする。必要に応じて、補助プリント等を配布する。タブレットを活用し、類似問題や補充問題を行い、理解を深めていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Qubena、Navima を活用し、授業で学習したことを確実に定着できるようにする。</li> <li>・図形に対する苦手意識があるため、作図を通し、形についての感覚を豊かにし、添削を通し理解を深められるようにする。</li> <li>・家庭学習は、授業でその日に学習した内容とリンクさせるようにし、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</li> </ul>

(4)理科

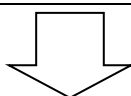
【小学校】

理科における指導の重点
・言語活動の充実を目指し、思考力・判断力・表現力を育成するために、実験の結果を自ら記録し、その結果から主体的に考察し問題解決に取り組むようにする。
・自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために、自らの考えをもち、グループで意見を交流し主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

・実験に対する意欲はどの学年も高いが、自ら問題をつくり予想をたて結果から考察をする力が弱い。問題解決型学習の流れをその都度指導する必要がある。そのために、問題解決型学習の流れをまとめたプリントを年度初めに配布する。それを見ながらその都度、活動の趣旨を確認し問題を解決していけるよう声をかける必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	・3年生：問題づくりの場面で、事象観察を全員で行い、その共通体験から解決したい問題を全員でつくりたいけるようにする。 ・4年生：予想の場面で、コラボノートやスカイメニューを活用し、グループや学級の予想を共有できるようにする。	・全学年共通して、問題解決型学習の流れをまとめたプリントを配布し、ノートに貼らせる。 ・問題や予想、考察の際の話形を示し、共有する際に考えが伝わりやすくなるようにする。 ・児童が実感の伴った理解を得られるよう、一人一実験を意識し教材の用意に取り組む。
5・6年生	・5年生：実験計画の場面で、協働的に確認した予想をもとに、実証性・再現性・客観性のある計画になるか、グループや学級で話し合い、計画を立てる。 ・6年生：考察の場面で、自分たちの班の結果のみを基に考察するのではなく、学級全部の結果を見比べてから考察するようにする。その際、タブレット端末を活用し、全員で結果の共有ができるようコラボノートなどを使う。	・条件制御の考え方や、ヨウ素デンプン反応による変化など、5年生で学習したことが6年生でも再登場することを伝え、スパイラル学習を行う。

(5) 生活科

【小学校】

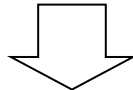
生活科における指導の重点

- ・自然と触れ合う機会が減っていることから、自然と関わることができる活動を意図的に設定していくことで、身近な自然を取り入れて、自分の生活を楽しむ力を身に付けさせる。
- ・表現方法に偏りがあるため、様々な表現方法があることを伝えることで、観察した内容や自分の思いなどを適切に表現する力を身に付けさせる。

現状分析

教科指導上の課題

- ・体験を重視した活動を多く取り入れ、成就感や達成感を味わわせ、学習意欲を次の学習活動につなげていく必要がある。
- ・様々な表現方法があることを伝え、意欲的に取り入れていく必要がある。
- ・交流の仕方を工夫し、学校の周りの地域との関わりをより深めていく活動を意図的に取り入れていく必要がある。
- ・都市化の進んだ地域に学校があるため、自然に触れ合う機会を増やしていく。
- ・自然との関わりがもてるような学習活動を工夫し、継続的に動植物に触れ合う機会を設定していく必要がある。
- ・表現方法に偏りがあり、適切な観察ができていない児童には、助言をしていく。
- ・自分と他人の意見の違いを受け入れられるようにする。



授業改善プラン

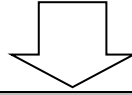
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の発想や主体性が生かされるような活動、表現方法の工夫をし、他教科等との関連を図り、柔軟な指導計画を作成する。</li><li>・発表形態を工夫し、自分の考えを伝える場面を設ける。</li><li>・生活科見学や近所の公園での活動を通して自然と触れ合う機会を、四季を通して作っていく。</li><li>・様々な表現方法があることを伝え、意欲的に取り入れていく。</li><li>・自然との関わりがもてるような学習活動を工夫し、継続的に動植物に触れ合う機会を設定していく。</li><li>・様々な価値観から自分とは異なる意見があることを伝える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・シンプルプレゼンやコラボノートを活用し、自分の考えをまとめたり、友達に考えを伝えたりする活動を増やす。</li><li>・タブレット端末のカメラ機能を活用し、動植物の記録を撮り貯めていき、変容を視覚的に分かりやすくする。</li></ul>

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点

- ・児童が主体となって協働的に学習課題に取り組めるよう、歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりなどさまざまな学習活動を展開する。
- ・協働的な学びを充実させるためにペア学習・グループ活動・話し合い活動を取り入れる。
- ・一人ひとりの学びを確かなものにするために、また互いに学び合うことを実現するために、一人1台端末の使用を充実させる。
- ・年間指導計画および評価計画を立て、指導と評価の一体化を図る。



現状分析

教科指導上の課題

・音楽に対する意欲は高いが、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの器楽的な技能がまだ定着していないので改善が必要である。また、音楽のよさを感じ取ることはできるがそれを自分たちの表現に生かすよう、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする態度や力を育成する必要がある。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・身体表現を通して楽しみながら学習活動に取り組ませる。そのために日本や世界に伝わるわらべうたや手話ソング等を年間通して授業内に取り入れる。 ・低学年で拍感、リズム感を定着させるために様々な打楽器に触れ、リズム表現活動に取り組ませる。その際ペア学習を取り入れ、互いの音を聴き合う力を身に付けさせる。(協働的な学び)	・リズムや旋律に対する理解を深めるためにデジタル教科書を活用し、すべての児童が学習内容を理解できることを目指す。 ・2年生では一人1台端末のアプリを使用し簡単な音楽づくりに取り組む。自由且つ感覚的な端末操作を用いて創作活動をすることで、個別最適な学びを実現する。
3・4年生	・音楽をよく聴くことで様々な表現のよさを感じ取り、それを自分たちの表現に生かす活動を積み重ねる。それらを高学年のさらに発展的な音楽表現活動につなげていく。具体的には例えば鑑賞して聴き取った要素についてコラボノートに書き込み、互いの考えに触れられるようにすることである。ワークシートの形式を様々な展開させることで、個別最適な学びにも対応していく。	・基礎的・基本的な内容の定着を図るために音楽を即興的につくって表現する活動をスモールステップで行う。後期にはそれを生かして意図的に旋律やリズムをつくる活動を行う。その際にソングメーカーやガレージバンドなどの音楽ソフト、アプリを活用する。そうすることで演奏技能に自信のない児童も主体的に学習課題に取り組めるよう工夫する。その際にグループの人数や構成に配慮し一人ひとりに着実に力が付くように支援する。
5・6年生	・クラスルームを活用し、PDF形式の楽譜や音名の楽譜データを送ったり演奏の範奏を録画した動画を配布したりすることで、楽譜を読むことが苦手な児童でも、技能を要する楽曲の演奏にも進んで取り組めるようにする。(個別最適な学び) ・協働的な学びを実現するためにグループ活動を充実させる。自分たちで話し合っって楽器を決めたり、創作活動をしたりすることで楽しく音楽活動に取り組めるようにする。	・我が国に伝わる伝統音楽や、伝統芸能を知ることが大切にする。そのためにICTによる視聴覚教材、デジタル教材を使用して学ばせる。バーチャル楽器を活用し、少ない楽器の台数でも和楽器が体験できるようにする。 ・学習のまとめにコラボノートを活用し、自分たちの学びを確かなものにした後次の学習につなげていったりように支援する。



(7) 図画工作科

【小学校】

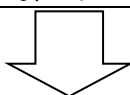
図画工作科における指導の重点

- ・学習内容の系統性を押さえた指導を行うことで、学びの連続性を図り、創造的に表現したり、鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくり出す喜びを味わうように指導する。
- ・ICT 機器を活用した授業を展開するとともに、一人1台端末を活用した授業改善により、補助的なツールとしての利用や、表現ツールとしての利用、鑑賞でのまとめとしての利用など、「個別最適な学び」、「協働的な学び」での利用を場面や、個々に応じて使い分ける指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・児童が課題に取り組みやすいように、児童の発想を引き出す導入の工夫や材料、場の工夫などを行い、表したいことに合わせて、材料や用具を使ったり表し方を工夫したりするなど、創造的な技能を身に付ける必要がある。
- ・完成した作品を校内の適切な場所に作品を展示するなど、学校生活を通して鑑賞できるような工夫をする必要がある。
- ・ICT機器の活用は教師が学習のねらいに応じたアプリケーションを選定し、授業づくりを行ったり、授業の流れの中で必要な場合に児童自身が個々に応じて使ったりことができるようにする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみやのり、絵の具などの道具の扱いに慣れるように、基礎的な活動を多く繰り返して指導をする。</li> <li>・自分のイメージを表現したり、言葉で伝えたり、作品を見せたりすることによって、自然と友達と作品を鑑賞し合う場が起これ、協働的な学びが行われるような場をもうける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「切る」「はる」など、実技の指導過程の見直しを行い児童に分かりやすいよう手本を示す。</li> <li>・ICTを活用し、技能を視覚的に捉えやすくする。</li> <li>・道具の取り扱いについて計画的に取り入れ、正しく使用できるようにする。</li> <li>・作品を鑑賞し合い、いろいろな表現方法を知り、今後の作品づくりに生かせるようにする。</li> </ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の関係でできなかった、造形遊びなど、友達と関わりながら作品をつくる経験を増やすことを指導する。</li> <li>・課題の内容を聞いて理解を示すが、作業が始まると形にできず手が止まって進まない児童に個別に支援をする。</li> <li>・友達の作品に興味をもって見たり、作り方や、表現方法、材料に着目して鑑賞したりできるようにする。</li> <li>・一人ひとりの進度に応じた到達目標を最初に示し、見通しをもって指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でできなかった造形遊びの活動を、友達の意見や自分の意見を考えながら行うことのできる場面を増やす。</li> <li>・自分のイメージを形にするために、どんな風にしたいかを具体的に言葉や図で説明させて、それに応じた材料や道具を例示する。それでも難しい児童には、表現方法を具体的に手元で見せながら、個別に言葉かけをする。</li> <li>・ICT 機器を使いながら、様々な表現方法を紹介し、多様な表現方法の導入の工夫を行う。</li> <li>・友達の作品を見る時間を設け、創造力を広げる時間を作る。</li> <li>・見通しをもって進められるように、その日の到達目標の目安を提示する。</li> </ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土粘土の経験が少ないため、経験できるように指導する。</li> <li>・手先の器用さは個人差があるため、個別最適な授業を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な粘土素材の立体造形の土粘土の経験を多くさせる。</li> <li>・手先の不器用さがあるため、手を使った反復が行え</li> </ul>

	<p>行う。支援が必要な児童には個別に言葉かけを行いながら、児童が目指している表現に近づけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を生かして、取り組める児童が多いため、今まで習ったことのある素材や材料を考えて表現できるように、場の工夫や材料の工夫の選択肢の幅を広げられるようにする。</li></ul>	<p>る活動を意識的に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT 機器を使って、個に応じた技能的な指導ができるようにする。</li><li>・自分のこだわりは大切に、友だちのよいところをまねしたり、自分もチャレンジしたりしてみようと試みる時間をとる。</li></ul>
--	--	---

(8)家庭科

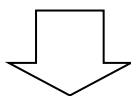
【小学校】

家庭科における指導の重点
・衣・食・住への理解、地球環境への興味・関心を深め実践的な行動力を育てる。 一人1台タブレットを最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図る。

現状分析

教科指導上の課題

・授業で学習したことを家庭で実践させ、技能を定着させるとともに生活に生かそうとする態度を育てる必要がある。 ・制作活動では生活経験や技能面での個人差が出ないよう指導する必要がある。 ・学習したことと自分の生活や家族とを関連付けて理解する力を身に付けさせる必要がある。
---



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	・制作活動では生活経験や技能面での個人差が出ないよう、技能を十分に定着させる。 ・授業で学習したことを家庭で実践させ、技能を定着させるとともに生活に生かそうとする態度を育てる。	・ICT機器や視覚教材、デジタル教材を活用して、全ての児童にとって視覚的に分かりやすい授業をしていく。 ・学習した内容から、自分で課題を選んで家庭でも実践するという経験をすることで、技能の定着と生活に生かそうとする態度を育てる。

(9) 体育科

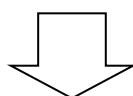
【小学校】

体育科における指導の重点
・中野スタンダードを基にし、個人内の到達目標を設置した「体力向上プログラム」を基本とした体力向上や自ら健康を保持増進する意識や実践力を育む。 ・一人1台タブレットを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図り、運動能力の向上と仲間とともに運動する楽しさに気付けるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

・運動が苦手な児童も楽しく活動できる場の設定や工夫を行う必要がある。 ・タブレットの活用力を向上させるために、種目ごとに適したツールを提案できる指導力が必要である。
---



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	・基本的な動きを行う際、大きな個人差があることと、児童が運動することの楽しさを味わえる指導をすることを念頭においた授業をする。 ・基本的な動きについて、タブレットに動きが分かる動画等のデータを入れ、自分が見たいときに確認できるようにする。また、自分の動きを動画撮影して、児童同士で見合ったり話し合ったりしながら運動できるようにする。	・段階に応じた運動遊びを取り入れ、感覚作りの運動を多く行う。 ・体のバランスのととり方や用具の操作の仕方を、児童がより明確に理解できるよう、教師の模範や教育テレビ番組の視聴を通して、言葉だけではなく視覚的にも伝える。
3・4年生	・運動能力の個人差が大きいため、個別最適な授業を実践する。 ・手足の使い方をイメージして動くことが難しい児童がいるため、模範となる動きを提示する。 ・ゲーム内での他者との関わり方が、身に付いていない児童がいるため、個別に言葉かけをしていく。 ・自己の動きを視覚的に捉えられるように動画撮影を用いる。	・運動能力を考え、教え合えるチームづくりをする。 ・準備運動、感覚づくりの運動を多く行う。 ・課題にあった練習の場を作るようにする。 ・タブレットを活用し、手本になる動画を見たり、自分の動きを動画に撮ったりして、視覚的に自分の動きを捉えられるようにする。
5・6年生	・自己やチームの課題を見付け、解決したり、課題を修正したりすることができるような学習過程にする。 ・ICTを活用し、自己やチームの課題を発見する手がかりにする。 ・互いに見合ったり、話し合ったりする時間を設定する。	・児童の実態や課題に合った場や用具、活動の工夫をする。 ・運動量の確保とともに、振り返りの時間も必ず設定する。

(10) 外国語活動・外国語科

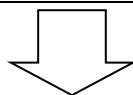
【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点
・3、4年生は年間35時間の外国語活動を実施し、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。
・5、6年生は年間70時間の外国語の授業をALTや友達との交流活動を通して行い、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。
・指導計画の工夫や事前の打合せを通して、担任がT1となってALTとの役割分担を明確にし、ALTを効果的に活用した授業を推進する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・既習事項を活用して自分が相手に伝えたいことを表現する力を身に付ける指導をする必要がある。
- ・聞く・話す活動で慣れ親しんだ英語表現を読んだり書き写したりする活動を効果的に取り入れて、小学校段階で必要な技能を身に付ける指導を継続して行う必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	・学習した英語表現を適切な場面で繰り返し使えるように何度も学習活動で取り入れ指導をする。 ・友達と外国語を使って交流し、楽しみながら外国語を身に付けることができるようにする。	・デジタル教科書の動画や音声、掲示物などのコンテンツを活用する。 ・指導者とALTが手本を見せ、イメージをもつことができるようにする。
外国語科	・一人ひとりが自信をもって表現できるように、単語や表現の仕方を一人1台の端末を活用しながら繰り返し練習できるようにする。 ・他者とコミュニケーションをとる機会を多く取り入れ、相互に楽しみながら学び合えるようにする。	・デジタル教科書の動画や音声などのコンテンツを活用する。 ・英語の音に十分に慣れ親しみ、コミュニケーションの基礎となる英語表現を多く発話させる。 ・小中の円滑な接続を図るために、「聞く・話す」活動を十分に行った上で「読む・書く」活動に移行するようにする。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

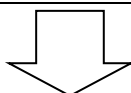
道徳科における指導の重点

- ・広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って受け止める心情を育てる。
- ・働くことや社会に奉仕することで、その意義を自覚させるようにする。
- ・自分の目標に向けてくじけずに努力しようとする態度を育てる。

現状分析

教科指導上の課題

- ・意見を発言する児童が偏り、一部の児童の意見で進んでしまうことが指導の課題である。
- ・主人公の気持ちになって考えることができるが、自分の似たような経験とも結びつけられるようにする必要がある。
- ・資料の読み取りだけでなく、資料の話から自分事として考えられるように授業を工夫していく必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・少人数での話し合い等、考えを共有する時間を設ける。
- ・授業ごとに毎回振り返りを行い、自分の考えを発言したり文章に表したりできるようにする。
- ・児童の実態に合った発問を工夫する。
- ・難しい言葉等は教師側から説明をする。
- ・資料の提示は教師の範読だけでなく、デジタル教科書や PowerPoint 等も活用する。
- ・コラボノート EX で意見を出し合い、全員の意見を共有する。
- ・SKYMENU Cloud のポジショニング機能を使い、自分の考えを視覚的に表すとともに、みんなの考えを共有できるようにする。